

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:令和6年度)

施設 の 名 称	宮城県障害者福祉センター
指 定 管 理 者 の 名 称	社会福祉法人宮城県障がい者福祉協会
施 設 所 管 部 課 (室)	保健福祉部障害福祉課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘 要
平成21年4月 ~ 平成26年3月	指定管理者	社会福祉法人宮城県身体障害者福祉協会	
平成26年4月 ~ 平成31年3月	指定管理者	社会福祉法人宮城県身体障害者福祉協会	
平成31年4月 ~ 令和 6年3月	指定管理者	社会福祉法人宮城県障がい者福祉協会	
令和 6年4月 ~ 令和11年3月	指定管理者	社会福祉法人宮城県障がい者福祉協会	

※ 管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指 定 管 理 者 の 名 称	名 称	社会福祉法人宮城県障がい者福祉協会
	所在地	仙台市宮城野区幸町4丁目6-2
指 定 期 間	令和6年4月1日 ~ 令和11年3月31日 (5か年)	
募 集 方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施 設 の 名 称	宮城県障害者福祉センター	
所 在 地	仙台市宮城野区幸町4丁目6-2	
設 置 年 月	昭和58年4月	
根 拠 条 例 等	障害者福祉センター条例	
設 置 目 的	障害者に関する各種の相談に応じ、障害者に対し必要な便宜を供与するとともに、障害者の福祉に関する研修、ボランティア養成等を行い、障害者の総合的な福祉の増進を図る。	
施 設 の 内 容	敷 地 面 積	2,310,257㎡
	構 造	鉄筋コンクリート造3階建
	内 容	事務室、ロビー、展示室、相談室、図書閲覧室、機械室、管理人室、湯沸室、トイレ(男女、多目的)日常生活訓練室、宿泊室、談話室、食堂、配膳室、浴室、リネン室、社会適応訓練室、介助技術訓練室、会議室(大中小)、倉庫など
開 館 (所) 日	日～土曜(火曜、祝日、年末年始除く)	
開 館 (所) 時 間	午前9時00分 ~ 午後9時00分	
指 定 管 理 者 が 行 う 業 務 の 範 囲	<ul style="list-style-type: none"> ・センターの設置目的に即した業務(施設の提供、相談及び研修など) ・施設全体の管理運営業務(運営推進協議会、利用者懇談会) ・施設の使用許可申請の受付及び許可業務 ・施設全体の維持管理業務(清掃及び保守点検等) ・施設の防失等の届出受理及び報告義務 	
利 用 料 金 制	採 用 の 有 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	利 用 料 金 の 名 称	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和6年度) (A)	前 年 度 (令和5年度) (B)	評価対象年度 (令和6年度) (C)		
開館(所)日数	288 日	293 日	288 日	100.0%	98.3%
延べ利用者数	21,000 人	16,616 人	23,508 人	111.9%	141.5%

※ 対象施設が複数ある場合は施設ごとに記入

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和6年度) (A)	前 年 度 (令和5年度) (B)	評価対象年度 (令和6年度) (C)		
各種事業参加者	1,700 人	1,755 人	1,783 人	104.9%	101.6%
自主事業参加者(館内実施分)	50 人	89 人	38 人	76.0%	42.7%
その他施設利用者	18,000 人	14,772 人	21,687 人	120.5%	146.8%
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
合 計	19,750 人	16,616 人	23,508 人	119.0%	141.5%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円、%)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和6年度) (A)	前 年 度 (令和5年度) (B)	評価対象年度 (令和6年度) (C)		
県指定管理料	48,860	47,506	48,860	100.0%	102.9%
利用料金収入	407	87	107	26.3%	123.0%
その他	451	280	373	82.7%	133.2%
収入計 (a)	49,718	47,873	49,340	99.2%	103.1%

(2) 支出

人件費	30,400	29,440	30,961	101.8%	105.2%
施設管理費	9,011	10,564	10,396	115.4%	98.4%
事業運営費	9,737	7,442	7,481	76.8%	100.5%
その他	570	611	564	98.9%	92.3%
支出計 (b)	49,718	48,057	49,402	99.4%	102.8%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	-184	-62	#DIV/0!	33.7%
前期繰越収支差額		357	173	#DIV/0!	48.5%
次期繰越収支差額		173	111	#DIV/0!	64.2%

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲

自主事業収支実績

(単位:千円, %)

(1) 収入

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和6年度) (A)	前年度 (令和5年度) (B)	評価対象年度 (令和6年度) (C)		
寄付金	0	0	0	0.0%	0.0%
自主財源	100	100	100	100.0%	100.0%
収入計 (a)	100	100	100	100.0%	100.0%

(2) 支出

事業費	100	100	100	100.0%	100.0%
支出計 (b)	100	100	100	100.0%	100.0%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	0	0	0.0%	0.0%

6. 評価対象年度(令和6年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

主な視点	項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】	県の評価 【施設所管課記入】		
				評価	評価	
経済性	施設・設備の維持管理業務の実施	<ul style="list-style-type: none"> 館内清掃業務(通年) 消防用設備保守点検業務(年2回) 自家用電気工作物保安管理業務(年7回) 貯水槽・汚水槽清掃業務(年1回) 簡易給水施設維持管理業務(年1回) 昇降機点検業務(年4回) 空調調和機器保守整備業務(年2回) 地下タンク清掃漏洩検査業務(年1回) 煤煙測定業務(年2回) 自動扉保守管理業務(年4回) セキュリティ業務(通年) 建築設備法定点検(年1回) 	<ul style="list-style-type: none"> 安全かつ快適な環境を保つため、定期的な設備点検や職員による日々の巡視を実施し、設備に異常があった際には迅速に対応しています。 職員による軽微な修繕対応に加え、トイレ配水管など消耗部品の計画的な交換を実施し、将来的な修繕費の抑制につながりました。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化が進行する中でも、施設・設備の日常的な点検・整備をもれなく実施していることにより、適切な管理運営を実施している。 利用者の安全を第一に、必要な修繕等を実施し、臨時の修繕への対応も適切に取られている。 職員の手による軽微な修繕や予防保全の取組も、経済的な施設運営に大きく貢献するものであり、高く評価できる。 発見した軽微な異常や修繕履歴については、引き続き県と情報共有を行うとともに、施設の状態把握に努められた。 	A
	収支実績	上記「5.管理者運営収支実績」のとおり	<ul style="list-style-type: none"> 清掃業務の委託については、人件費の高騰に対応するため、清掃箇所を縮小し、一部については職員が清掃をおこなうことで、支出を抑制しました。 利用者の多様なニーズに対応したプログラムを提供するため、個人負担の見直しをおこない、事業費に充当しました。 事務機器の再リース品を導入し、コスト削減を図りました。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 物価・人件費の高騰や施設の経年劣化による修繕箇所の増に伴い、施設管理費が増加傾向にある中でも、事業運営や安全に支障の出ない範囲で各種の経費節減の努力を重ね、健全な経営状況を維持していることは高く評価できる。 	A
効率性	管理運営体制	<ul style="list-style-type: none"> 正規職員6名(うち1名体育センター兼務)、非正規職員1名を配置し、実施計画に基づき管理運営をおこないました。 【研修会派遣実績】 マイ・タイムライン作成講座 福祉教育学習会 旅館業衛生講習会 アンガーマネジメント研修 宮城県心のサポーター養成研修 仙台市危険物・高圧ガス事故防止連絡会 身体障害者の理解啓発セミナー 優先調達説明会 救命救急講習会 	<ul style="list-style-type: none"> 兼務職員を配置し、両センター間の連携を密におこないながら適切な管理運営を実施することができました。 研修会への派遣に加え、所内研修では、ダンス講習会、防犯対策、虐待防止研修会を開催し、職員の資質向上と業務の質の向上を図りました。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 適切な人員配置等により、2施設間での情報共有や連携を密に行いながら、施設の管理運営を適切に実施している。 外部研修への参加や所内研修の開催等を通じて職員の資質向上にも積極的に取り組んでいることが認められる。 	A
	人員体制	正規 6人 非正規 1人				
	運営業務(ソフト事業等)の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相談事業 研修事業 日常生活支援事業 カルスポ(カルチャースポーツ)・交流事業 広報啓発事業 施設の便宜提供 サービスの向上にかかる取り組み、ニーズの把握 環境配慮の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 教室の開催については、ボランティアの協力を得て効率的な運営をおこないました。また、ボランティアの養成に注力し、新たな担い手の育成を進めることで持続的なボランティア活動の体制づくりに取り組みました。 教室のチラシ等の郵送については複数件をまとめて発送することで、業務の簡素化と郵送費の削減につなげました。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアを含む多様な参加者・関係者が参加できる教室やイベントを企画し、さらなる障害者福祉の増進やインクルーシブ社会の実現に努めていることは評価できる。 業務効率化・郵送費の削減のために郵送物発送事務の工夫を行っており、効率性の観点から高く評価できる。 	A
有効性	利用実績	上記「4.施設利用実績」のとおり	<ul style="list-style-type: none"> 利用者ニーズを踏まえた新規プログラムの企画により、内容の更なる充実を図りました。館内での教室開催に加え、出前教室についても継続的にPR活動を行い、より多様な層への参加機会の提供と普及啓発活動に取り組むことができました。この取り組みを通じて、多くの方にセンターの存在や機能を知っていただく機会となり、利用促進につながりました。 積極的なPR活動に加え、福祉団体が実施するイベントの会場としてセンターを利用していただいたことで、延べ利用者数は前年比141.5%と大幅に増加しました。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 新規プログラムの企画開発や積極的なPR活動、共同事業の開催等の利用者増加に向けた取組を積極的に行った結果、事業計画を上回る利用実績となっており、高く評価できる。 	S
	利用者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進委員会の開催(年2回) 利用者アンケートの実施(年1回) 機関紙の発行(年1回) 備品の無料貸し出し ロビーの開放・展示スペースの提供 定期利用団体への貸出ロッカーの提供 玄関、トイレ入口に音声案内の設置 ホームページ、Xの運用 	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進委員会や利用者アンケートを通じて意見や要望を伺い、集約した内容を施設運営に反映させることで、サービスの改善に役立てました。 ホームページに教室のチラシや施設利用状況を掲載し、情報を取得しやすい環境を整備しました。また、申込手続きについては、メールによる受付対応をおこない、誰もが利用しやすい環境の整備に努めました。 Wi-Fi環境の整備やネット申し込みの導入などに関する要望が多く寄せられておりますが、直ちに対応することは困難な状況にあります。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ホームページでの情報発信やメールによる利用申込受付対応など、利用者の利便性及び情報アクセシビリティの向上に資する取り組みを着実に実施しており、評価できる。 ネット環境の整備については、建物構造の問題等もあり、直ちに対応することは難しい部分もあるが、協議のうえ対応を引き続き検討したい。 	A
	利用者の苦情、要望等の把握とその反映	<ul style="list-style-type: none"> 虐待防止委員会(受付件数0件) 意見箱の設置(受付件数3件) 口頭での利用者からの要望(受付件数1件) 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣住民より太鼓の演奏に伴う騒音について苦情が寄せられたことを受け、利用団体と協議のうえ、消音パッドの使用を徹底するなどの対策に取り組んだ結果、騒音の問題が改善されました。 多様性の観点から、利用報告書における男女の記載をなくしてほしいという意見が寄せられたことを受け、県に確認をおこない、その結果、賞館においては、男女比の報告は特に必要ないことが確認できたため、今後は使用人数の総数のみを報告するよう変更しました。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 利用者からの意見、要望等に対し、可能な範囲で真摯に対応しており、評価できる。 	A

その他	県民の平等利用	<ul style="list-style-type: none"> 部屋の申込受付方法 ※公平性を保つため、利用の6ヶ月前の毎月1日からの受付とし、予約専用ダイヤルにて1団体(1個人)までの予約を受け付ける方法で実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・優先予約日においてはルール遵守に努め、公平性を徹底しました。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・施設予約受付について、公平性を保つルールに基づく方法により、適切に運用されている。 	A
	安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場の交通整備・誘導の徹底 ・点字ブロック上の車両移動の徹底 ・避難訓練(年3回) ・救命救急・AED講習 ・消防設備点検 ・トイレ呼び出しブザー等の作動確認 ・AED、熱中症対策キットの設置・点検 ・新型コロナウイルス等の感染症対策 ・災害用非常食・救護用品の整備 ・防災対策研修参加・交通安全指導実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練では、館内利用者にも参加を呼びかけ、円滑な避難誘導方法や避難経路の確認から、職員の防災意識の向上を図りました。 ・救命救急・AED講習を受講し、職員の安全意識の向上を図りました。 ・所内研修で防犯対策に関する研修を実施し、職員の防犯意識の向上を図りました。 ・車両運転の際は、運転前後にアルコール検知器を用いたチェックを実施し、安全運転管理の徹底に努めました。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・施設特性上特に求められる安全確保措置に十分努めているほか、福祉避難所として、設備の点検・更新や避難訓練等を適切に実施している。 	A

主な視点	項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】	県の評価 【施設所管課記入】		
				評価	評価	
その他	個人情報の保護	<ul style="list-style-type: none"> 宮城県障害者福祉センター個人情報保護規程に基づき、適正な管理に取り組みました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業等で取得した個人情報については、あらかじめその利用目的を明確にし、目的外での使用や外部への持ち出しを禁止するなど、管理を徹底しました。 ・機密書類の処理については専門業者に依頼して安全に処理をおこないました。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の保管及び破棄に関するルールが職員間で十分に共有されており、適切な情報管理がなされている。 	A
	自主事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・アートBOXギャラリー ・アートBOXスペース ・ワークショップの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・館内の各会議室や宿泊室等、センター全体をアートギャラリーとして活用し、障がいのある人による多彩な作品を展示しました。来館者には気軽に鑑賞を楽しんでいただくとともに、製作者にとっては作品を発表できる機会として利用を呼びかけ、アートを通じた社会参加と相互交流の促進を図ることから、センターの新たな社会資源としての活用につなげることができました。 	S	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな取組を実施することにより、当事者・施設利用者の社会参加と相互交流の機会が増加し、センターの社会資源としての価値を高めることに繋がっていることは大いに評価できる。 ・認知度を高める方策と作品の安全管理について、さらに検討・留意いただきたい。 	S
	その他の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民・関係機関との連携 ・「わが社のe行動宣言」による環境配慮の取組みの実践とグリーン購入の推進 ・優先調達への推進 ・ヘルプマークの配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の実施においては、ボランティアの協力を得ながら運営し、センターまつりでは企業や学生ボランティアにも参画を得て、連携と交流を深めました。 ・他団体が主催するイベント等にブース出展し、センターの取組や事業内容を紹介することで、広報活動の充実を図りました。 ・ヘルプマークの配布を通じて普及啓発に取り組みました。 ・e行動宣言の取組みの一環として、生ごみの堆肥化を実践するとともに、事務用品の購入においても環境に配慮した物品を選定し、取組みを推進しました。 	S	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントや教室への学生・企業ボランティアの参加等により、地域との交流が十分図られていることが確認できる。 ・環境配慮行動としてこまめな節電や空調調整、生ゴミの堆肥化、グリーン購入等、着実に取組を積み重ねていることが認められる。 ・優先調達についても、積極的に取組んでいる状況が認められ、さらなる調達範囲の拡大を期待したい。 	A
	総合評価		<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある方の利用拠点としての充実と、地域の社会資源としての貢献を目指し、ソフト事業の充実やPR活動、外部団体との連携を進めた結果、利用人数の増加と、県内各地からの新たな利用者層の開拓につながりました。また、利用者から寄せられた意見や要望には迅速に対応し、利用手続きの見直しをおこなうなど、利便性の向上につなげました。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用ニーズが回復するなかで、サービス向上や利用者増加のための様々な工夫を実施しており、地域における社会資源としての施設の価値を高めながら、適切な施設運営管理が行われていると認められる。 ・社会状況やニーズの変化に対応してイベントや自主事業の内容・開催の在り方、PR手法等もブラッシュアップされており、今後も積極的な取組を期待したい。 	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかったと認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項 目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	<p>・Wi-Fi環境の整備やネット申し込みの導入など、デジタル対応に関する要望が多く寄せられています。現時点では予算等の状況を踏まえると直ちに 対応することは困難な状況ですが、引き続き情報を収集し、利便性の向上につなげられるよう検討を続けていきます。</p> <p>・施設の老朽化に伴い故障箇所が増加が予想されるため、利用者の快適な環境を維持するため計画的な修繕対応が求められます。</p>	<p>・ネット環境やデジタル対応に関する要望については、直ちに対応することは難しい部分もあるが、協議のうえ対応を引き続き検討したい。</p> <p>・施設の老朽化対策については、限られた予算を有効に活用しながら、今後も計画的に実施され、障害者福祉の増進に寄与する安全な施設として維持・管理されることを期待する。</p>